

I 「これらすべての（武具）」＝1. 真理の帯。2. 正義の胸当て。3. 平和の福音の備え。

これらの上に加えて、この他尚、信仰の大盾（4つ目の武具）を取りなさい。

II 「悪い者が放つ火矢」。

1. 霊的戦いに勝利する為には、敵である悪魔の策略を知る→

- ①真理ではなく偽りを入れようとする。
- ②神の義、正義ではなく、人間の（不完全な）義で対抗させようとする。
- ③人々を救う福音の備えをさせず、福音を語る機会を逃させようとする。
- ④霊的な火矢を私たちに放つ。

「火矢」：先には鉄のやじりがついており、貫通する威力がある上、その先には麻が巻かれ火が燃えている。突き通し、燃やし、相手をパニックに突き落とす三重の効力があつた。

2. 悪魔が私達に放つ火矢＝

- ①失望の火矢を与える。

悪魔は色々な事で私達を失望させようと狙っている。

「期待しているようにはならなかった。もう駄目だ」

「神はおられないのではないか」

「神も、だれも私を理解してくれない」

「神は私を赦して下さらない」と思わせる。

※被造物の悪魔より強い創造者である全能の神の励ましの御言葉＝

「いつでも祈るべきで、失望してはいけない」（ルカ18：1）。

「わたしの目には、あなたは高価で尊い。わたしはあなたを愛している」（イザヤ43：4）。

「もし私たちが自分の罪を告白するなら、神は真実で正しい方ですから、その罪を赦し、私たちをすべての不義からきよめてくださいます」（Iヨハネ1：9）。

神のみわざは、その時限りではない。神は、神の時に、神の方法で、御業をなされる。祈り続ける事、福音を語る事は決して無駄にはならない。

※神の分＝人を救われる。

主を信じている私達の分＝関係作りをし祈りつつ主を伝える。

福音を聞く人々の分＝主を信じるか信じないかの決断。選択。神は、人をロボットではなく、人格をもって応答する者として造られた。神は待っておられる。

- ②後悔、自分自身や人への責め。

「ああ、こうしておけば良かった。こうしなければ良かった。ああ言えば良かった。言わなければ良かった。私のせいだ。あの人のせいだ。ああもう駄目だ」という火矢。

後悔と悔い改めは違う。

悪魔が放つ火矢、用いる後悔は、悔やむ事だけをさせ、赦して立ち上がらせて下さる神に立ち返ろうとさせない。神が与えられた貴重な今という時間、エネルギー、命を失わせてしまう。

「神のみこころに添った悲しみは、後悔のない、救いに至る悔い改めを生じさせますが、世の悲しみは死をもたらしめます」（IIコリント7：10）。

神が受け入れられる悔い改めは、自分の過ち、罪をごまかさず認め反省し、神に正直に告白しお詫びし、主の十字架の血による神の完全な赦しを受け、神に立ち返り神と交わり神と共に日々歩む。空しい後悔で日々を費やすことをせず、すべてを主に委ね、主が下さる新しい一日一日を主と共に大切に生き、自分の

果たすべき分を主に感謝しつつ主に拠り頼んで果たして行く。

「自分の務めを十分に果たしなさい」(Ⅱテモテ4:5)。

③悪魔は、過去の事には空しい「後悔」という火矢を放つ。そして将来の事では、「心配、思い煩い、臆病」という火矢を放つ。

どうしようもない事への後悔や将来の心配をさせる事により、神が下さる今日という大切な日、エネルギーを失わせようとする。

※悪魔より強い神の励ましの御言葉＝

「神は私たちに、臆病の霊ではなく、力と愛と憤みの霊を与えてくださいました」(Ⅱテモテ1:7)。
内住の助け主なる聖霊は、私達に必要な力と愛と思慮分別を与えて下さる。

「あなたがたの思い煩いを、いっさい神にゆだねなさい。神があなたがたのことを心配して下さるからです」(Ⅰペテロ5:7)。

いっさいを神に委ねるとは、自分は何もしない事ではなく、全能の神にすべて(結果も)を委ねつつ、自分の果たす分を祈りつつ識別し、それを主に頼って果たす事。試験に臨む時も。説教準備も。

「明日のことまで心配しなくてよいのです。明日のことは明日が心配します。苦労はその日その日に十分あります」(マタイ6:34)。

明日の為の心配をしないとは、明日の為の備え(苦労)を何もしないという意味ではない。心配と備えは違う。神を信頼し、心配・思い煩いに支配されず、神に心を支配していただいて、その日その日に自分のなすべき分を主に頼って果たして行く。

Ⅲ「信仰の大盾(原語:長楕円形の、戸に似た長盾)を取りなさい。それによって、悪い者が放つ火矢をすべて消すことができます」:16。

私達を守る盾、悪魔の放つ火矢(失望、空しい後悔、恐れ、思い煩い)をみな消す事が出来る「信仰」とは＝主を信じる信仰・主としっかり繋がる信仰・真理である御言葉への信頼・どんな戦いや苦しみや試練の中でも全能であり私達を心から愛して下さっている私達の父親である神を信頼する信仰。

「民よ どんなときにも神に信頼せよ。あなたがたの心を 神の御前に注ぎ出せ。神はわれらの避け所である」
詩篇62:8。

何が起こるかを私達はコントロールできない。しかし、起きた出来事への応答、対処(失望、後悔、思い煩いか、そこにも主の支配を認め主を信頼する事を選ぶか)は、主に頼り選べる。

具体的に言うと、あわてず、あせらず、あきらめず、何かが起きた時、キリスト者は、落ち着いて、「間合いを置き」、静かに神と交わり、その意味を思い巡らし、主に尋ねながら一步一步、歩む幸い。

※ピンチの時も不動のあわてない主が共におられる事を覚えよう!

「神を愛する人たち(先行する神の愛を知り、神に罪を告白し、神に立ち返る人達)、すなわち、神のご計画にしたがって召された人たちのためには、すべてのことがともに働いて益(主の姿への成長、神の御業の前進)となる」(ローマ8:28)事を信仰の盾をもって信頼して歩もう。出来事の意味が今は分からなくても、意味とご計画を持っておられる神を信頼する信仰の大盾。

※福音版の証し

「何があっても神様に全部お任せしていただいたいところにいるので笑っていられます。失敗しても失敗ではない。絶対この先に神は最善を用意しておられると思うとワクワクします。しんどいけど楽です。色々な悩みを聞いていたら、『教会に行ってみて下さい(神様に重荷を降ろして下さい)。どんなに楽になるか』と言ってあげたくなります。大変な事は誰にでもあるけれど、神様は、ちゃんと逃れる道を用意して下さっているのですから」。

自分の身に起こっている辛い事に身を任せず、辛い事をも支配しておられる神に身を任せよう。悪魔は、私達が、共におられる主を忘れ、困難や悩みにだけ心の目を向けさせ、落ち込むように火矢を投じる。そんな時、信仰の大盾をもって神を信頼しよう！

(※聖書 新改訳 2017→「信仰の盾を…」、聖書 新改訳第3版→「信仰の大盾を…」)